

池田輝政は 1584 年から 1591 年まで岐阜城を任された。信長の家臣として、信長の多くの重要な戦闘に参加した。信長の死後、池田輝政の一族は豊臣秀吉（1537–1598）に仕えた。

1584 年の小牧長久手の戦いで、父の池田恒興（1536–1584）と兄の池田元助（1559–1584）の両者が戦死したあと輝政は岐阜城を含む美濃の大部分を受け継いだ。

1590 年、現在の愛知県吉田城に移り、1594 年に徳川家康の娘徳姫（1565-1615）と結婚した。1598 年に秀吉が亡くなったとき、輝政の忠誠心は彼の新しい義父に向けられた。1600 年、池田輝政と福島正則は織田信秀（1580-1605）が入っていた岐阜城に共同攻撃を仕掛けた。岐阜城はわずか一日で落城した。

戦国時代の終焉を告げた現在の岐阜県の関ヶ原の戦いの間、輝政は南宮山山頂の基地を守った。西軍の代表毛利氏が平野に布陣する東軍を挟むのを防ぐための布陣であった。輝政の貢献は、戦略的に重要な姫路城（兵庫県）を家康から与えられた。1613 年に亡くなる頃には、彼の力と影響力は非常に大きくなり、池田輝政は西国の将軍と呼ばれた。